



Shamanism

「近代医学の貢献者」

名誉院長 西 田 敬

医学は醫學とも書いた。医学には巫女の御託宣で予後を占い、且つ、病の本復を祈願した巫術の時代も在った事を物語る。然し、飽く迄も歴史を近代医学に拘泥れば、昔の医院や病院はKresol(クレゾール：石炭酸)の匂いが籠り、それが病院や医者印象とも為った。医者と石炭酸の仲立ちを務めたのは何と云ってもLister JB(1909)と云える。希釈した石炭酸を用いた病室内噴霧と、防腐包帯法は複雑骨折などの治療や管理に卓越した効果を齎し、非衛生的と、散々の世評だったGlasgowの王立病院の評判を一躍、世界最高の衛生的な施設に押し上げた。之は紛う方なくListerの功績である。茲で強調したい事は、有名なCrimean War(クリミア戦争：1855—1857)や、Pasteurの卓抜なる細菌学の業績(1822—1895)或は、Listerの快挙と年代的には大差ない事である。ナイチンゲールが名を馳せたクリミア戦争は、大腿骨

切除術での手術死亡率が92%を記録し、治療医学の歴史としては惨憺たる敗北の記録であり、燭台を手にした白衣の天使の回診(1822—1895)も瀕死の患者の生死の判定、或は引導を渡すのが精々であったろうと懸念される。病死者を葬る可き墓堀人が其の儘、倒れ込んで自ら掘った穴に葬られたのはクリミア戦争でのエピソードである。折しも、ヨーロッパはRenaissanceの黎明期、宗教的な暗愚蒙昧からの脱却が進行中の、謂わば文明開化の時期。医学は躓き苦しみ乍も微々たる進歩を目指していた。掃き溜めに鶴、この時期に刮目す可き業績もある。Edward Jennerによる種痘は、免疫学が系統付けられる遙か以前に試行されていた、牛痘virusを用いた天然痘の能動免疫療法は多くの人命を救い、最近のWHOの天然痘、撲滅宣言に繋がった。

医学は遅遅とし乍も確実に進歩はしている。今でも進行中の歴史の眞只中にある。例えば、子宮頸癌の予防とHPVワクチン：恰も、Jennerの復活。中世(暗黒時代)のヨーロッパにあって、牛飼いの伝承を基にして編出された天然痘の能動免疫は大当たり。同様に、女性の生命を脅かし続けた子宮頸癌。原因はHPVの感染と判明。然らばワクチンが製作可能。根絶の日も見えて来た。御先真つ暗なのが卵巣癌。スクリーニングの無残な結論。予後改善には繋がらず、確認の為の開腹手術など有害事象が寧ろ目立った。早期発見などの見果てぬ夢より、発癌が成立する前のprophylacticの手術の方が有効性の上で現実的とも思える。

